

=====

4 . Business Book Club 投稿例

=====

8月31日：「Getting Past No」第3週目まとめ

第3週（8月24日～8月30日）：

- ・ 52ページ（Part II: 2 STEP TO THEIR SIDE）～
- 75ページ（Part II: 2 STEP TO THEIR SIDE の終わり）

課題を提出される方が心なしか減ってきているような気がしますが、みなさん如何でしょうか？

読み方については

- ・ 分からない単語全てを調べるのをやめて読む量を増やした
- ・ 他の方が提出された課題を読んで語彙を先に学んでから1週遅れで読んでいるなどの投稿をいただきましたが、正解はありません。

自分に合っている方法を見つけて、今後も一緒に読み進めて行きましょう！

内容のまとめ

両者が満足できる合意に達するために超えるべき2つ目の障害は相手のリアクションです。

相手からネガティブな感情のリアクションを受けた時には

- 1 . 相手の言い分を聞く
- 2 . 相手の言い分を認める
- 3 . 相手に同意する

3つのステップを踏んで「相手の立場に回る」ことで相手の気持ちをなだめてから、自分の立場を主張するようにしましょう。

英語のポイント

p.54

As practitioners of Japanese martial arts have long recognized, it is hard to attack someone while is suddenly on your side.

日本の武術家が長きに渡り理解してきたように、突然自分の側に回ってきた相手を攻撃することは難しい

現在完了形に long をはさんで「長きに渡り～してきた」を意味する文章で、現在完了形に for a long time を付けるのと同じです

例) As practitioners of Japanese martial arts have recognized for a long time...

long の位置が不自然に感じるかもしれませんが、ネイティブはよく使う構文です

p.61

theories that would, as he put it, allow "Seller to crush Buyer"

彼の言葉を借りると " 買い手が売り手を押さえ込む " ことを可能にする理論

ここでの「put」は「言葉にする」という意味で（過去形）「as he put it」で「彼が使った言葉を用いると」（＝彼の言葉を借りると）という意味の補足的な節になっています

「Let's put it this way;」（こういう言い方をしてみよう）、「To put it in other words」（言い換えれば）など、「put」を「言う」という意味で使う慣用表現は多いので覚えておきましょう

p.61

as is so often the case with first-year students

1年生には非常によくあるように

「as is often the case with ~」で「~にはよくあるように」という意味の慣用表現です
often が always に変わることもあります意味は同じです

「as is the case with ~」になると「~と同様に」という意味です
上記いずれも頻出表現ですので押さえておいてください

p.62

To the contrary...

それとは反対に

「to the contrary」で「それとは反対に」という意味の慣用表現です

「~とは反対に」と、何と比較しているか明確にする時には「to the contrary of ~」と「of」を使って表現します

「In spite of all evidence to the contrary, he insisted otherwise.」（全ての反対の証拠に関わらず、彼は逆の主張をした）というように、名詞（この例文では"evidence"）を形容するのに使うこともできます

p.65

Your goal is to tune in to the same wavelength.

あなたのゴールは相手と同じ波長に合わせることにある

「tune in to」で「~に波長を合わせる、~の話を耳を傾ける」という意味の慣用句です。

p.70 「He tunes out the familiar parental lecture」（彼は親からのいつものお説教に耳を貸さない）の「tune out」（~に耳を貸さない）が反対語です

いずれもよく使われる表現ですのでセットで覚えておきましょう

p.67

A person whose ego needs stroking is dependent on the recognition of others.

自尊心を満足させる必要のある人は、他人から認められることに依存している

「need + 動名詞」で「~される必要がある」を意味します

「need to be 過去分詞」と同じ意味です

例) A person whose ego needs to be stroked...

文章を短く、すっきりさせるのに役立つ表現ですので、ライティングの際活用してみましよう

p.67

To the extent you can satisfy this need for recognition, you can disarm the person.

この「認められたい」という相手のニーズを満たせるだけ、あなたはその人物の敵意を和らげることができる

「To the extent + 節」で「～しただけ」という意味になります

「To the extent + of」で「～という点で、～の程度まで」という名詞句になります

「To what extent ~ ?」で「どの程度まで～？」という疑問文になります

extent を使って程度を表す表現もいずれも頻出ですので、語順などしっかり押さえておきましょう

p.74

it has everything to do with our problem

それは我々の問題と大いに関係がある

「have everything to do with」は「～と大いに関係がある」という意味の慣用表現です
everything を something に変えて「have something to do with」とすると「～と何かしら関係がある」、nothing に変えて「have nothing to do with」とすると「～と何ら関係がない」という意味に変化するように、「have」と「to do with」の間に来る言葉で関連性の度合いが変わります

すぐ上の「I don't see what it has to do with our problem」(それが我々の問題とどう関連するのか分からない)という文章は、「What does it have to do with our problem?」(それが我々の問題と何の関係があるんですか?)という疑問文が節に変わって含まれています。関連性の度合いを問う時にはこのような疑問文になります

これらの表現も口語/文語ともに頻出ですので、聞いて/読んで理解できるだけでなく、自分でも使えるようにアウトプットの練習もしてみてください

=====

如何でしたか？

今週は日常役立つ表現が沢山ありました。また、上手に交渉を進めるためのステップも2つまで来ました。英語の観点からも、交渉の観点からも応用範囲は広いと思います。

英語のポイントでも何箇所かで触れましたが、機会があるごとに自分の英語アウトプットや交渉に適用・応用することで確実にインターナライズし、自分のものにしていってください。

この本で紹介されている交渉術のヒントを使って成功した/失敗したなど、交渉の観点からの投稿も歓迎します！